

モニター通信 No.6

皆さんから寄せられた「モニター通信2月分」を紹介します。

「消費生活モニター活動を通じて知人や地域に伝えたいこと」

モニターから No. 1

セミナーに参加をして考えたこと

現代の社会生活において、子どもから高齢者に至るまで携帯電話等の通信手段は必要不可欠です。とは言え、若い母親たちも核家族で相談相手も多くはなく、一番身近なスマホを相手に孤独な子育てに。スマホを活用までは「良し」としても、子守りまで任せる生活。そのような毎日の中で小学一年生でゲームに夢中になり、電話料が高額に……。実際に近親者の中であったことで、話し合っても両親が留守、遅い帰宅が多く未解決。本当に何か方法を模索中です。

モニターから No. 2

土浦市の空き缶回収では、缶の内側を洗って出すことになっています。私はプルトップ缶の内側を洗っていて手を切ったことが2回もありました。その時は自分が不注意だったからと思っていたのですが、ある時、普通に洗っていて手を切ったのだから、もしかしたら他の人も同じ経験をしているかもしれないと思い始めました。

私は以前から続けてこの消費生活モニターをしています。たまたまその年のモニター通信のテーマに「製品事故」がありました。私は空き缶を洗っていて手を切ったことを書きました。驚いたことに送られてきた全員のモニター通信をまとめたものの中に、私と同じ空き缶で手を切ったと書かれたものがあったのです。その時、気が付きました。製品を普通に使用しているのちょっとしたケガや不都合は自分のミスだと考えがちだが、同じ体験をしている人はたくさんいるはず。これはミスではなく、製品に問題があるのだと。そして、このことは外部に伝えるべきだと。

私が手を切ったプルトップ缶は、ほどなく安全な形に変わりました。誰かがメーカーに伝えたのでしょう。私は多くの人に伝えたいと思います。製品を普通に使用しているのケガや事故はあなたのせいではなく、製品事故の可能性があると。そしてそれをメーカーや消費生活センターに伝えて下さいということを。

モニターから No. 3

消費生活モニター活動は3年になりますが、まだ実感がありません。市民生活にかかわる各講座として勉強しましたが、身近な問題でなかったもので、なるほどと思い詐欺などには十分注意しようと思いました。その反面、モニターとして地域に何か貢献できることはないかと考えることもあり「くらしの豆知識」を引っ張り出して、時折勉強の真似事をしていました。

そんな毎日を過ごしていましたが、先日行き付けの床屋さんで、私の町内の方が「高額な補聴器を売りつけられ、どうしたらよいか」との相談をされているところを耳にしました。私は相談を受けている床屋さんと後で相談して消費生活センターに速報して相談することとしました。私

は直接の相談相手ではないのですが、少しは地域活動できたかなと思いました。

この種の問題は、被害に遭った当事者の女性が79歳で日常生活がほとんど一人暮らし同様であったことです。聞こえが悪いと周りの親戚等から言われる中で、紹介された電気屋から勧められる通り購入契約をして支払ってしまいました。時間が過ぎているためクーリングオフ制度は使えず、今後はセンターのお力添えを頂きながら処理されることと思いますが、報道機関からの報道以外にもこのような問題が身近にあることを痛感しました。

今回はたまたま問題に直面しましたが、改めて地域活動の必要性も痛感し、身近なテーマとし皆様と実践していきたいと思います。

モニターから No. 4

高齢者を狙った悪質商法は、近年、新たな手口や巧妙さを増したことにより、被害が広がっています。『平成25年版消費者白書』によると、2012(平成24)年、全国の消費生活センターに寄せられた65歳以上の高齢者からの相談は20万件を超えており、65歳以上の人口の伸び率を大きく上回り、被害額も10年間で約2倍に増えています。

悪質業者は高齢者の心に巧みにつけ込むため、だまされたことにさえ気付かない高齢者がいる一方、だまされた高齢者はそのことを人に言うことをためらう傾向が強く、相談機関につながることなく被害が重篤化してしまうことも少なくないといえます。

消費者被害を防ぐためには、高齢者に身近に接する方たちの見守りが大切であり、【①気付いて→ ②声かけて→ ③関係機関につなぐ】ことが必要です。

モニターから No. 5

特殊詐欺(オレオレ・還付金等)の被害が、全国的に深刻な状態になっています。平均して約20人の人が、毎日1億5千万円の被害に遭っています。老若男女を問いません。私は大丈夫と思わずに、他人事と思わないように、繰り返し教育しかないと思います。

モニターから No. 6

エンディングノート片手に身辺整理を始める年頃になって、子どもや孫たちの生活をひたすら案じ続けてくれた親たちの生き様を改めて思い出します。若い頃には充分理解できなかった親たちの心遣い。移り変わる時代の中で、政治家やお役人や企業の皆さん方はそれぞれの立場で限られた努力をなさるでしょう。私たちも親たちに習って、消費者という立ち位置で出来る限りの努力を致します。お花が万国の人々の心を喜びで満たすように、子の生活を案じる親の心は世界をつなぐ「希望の花」と思います。

消費生活モニター活動で、私が一番学んだことは、何か事が起こった時、《人は一人ぼっちではない》ということ。また簡単明瞭な事実がなぜか広がり難しく、発動し難いこと。そんな先祖代々の嘆きと悲しみの宿題を、しっかり受け継ぐこと。家に閉じこもらずに、散歩でもジョギングでも、外の空気を吸うことだと時々思います。

モニターから No. 7

昨今、新聞やテレビで報道される詐欺事件は手口が巧妙で多種多様。新たな手口が報道される度に驚くばかりである。でも、報道されているのはほんの「氷山の一角」で、実はもっとたくさ

んの人が被害に遭っているのだと思う。

困った時にどこへ相談したらいいのか分からずに、少額だからとか騙された自分が悪いのだからと「泣き寝入り」させられているのではないだろうか。困った時にはとりあえず「消費生活センター」に相談してみよう、聞いてみよう、というふうに変われば、もっと救われる人がいると思う。そのためには、市報などを通じて積極的にアピールし、電話番号を皆に知ってもらうことが先決だと思う。

モニターから No. 8

今年1年モニターをやらせて頂いて、いろいろな勉強をさせて頂きました。セミナーや消費生活展には直接参加出来なかったのはとても残念でしたが、モニター通信のテーマに合わせてハガキを書くことで、そのテーマについて深く考えさせられました。

消費生活センターとは、とても幅広い活動をしていると思いました。モニターをやらなければ知らなかった市民の声や消費生活センターの活動内容を、知人や地域に伝えたいと思います。消費生活センターの存在自体もよく分からない方もいるので(私もその一人でしたから)皆さんにも分かってもらいたい、もっと地域に身近な存在になるよう伝えていきたいです。

1年間ありがとうございました。

モニターから No. 9

今の世の中、本当に誰を信じてアドバイスを受けたら良いのかと考えてしまう事件が多すぎます。消費生活センター等の公の機関に足を運ぶことをおっくうがらずに、また一人で迷わず、悩まず、このような機関に相談に行くよう頭の片隅に置いておいて下さいということを、声を大にして伝えていきたいと思っています。

モニターから No. 10

1年間お世話になりました。毎回の通信を読むと、あんなこと、こんなこと、実践している方。そのように感じているのだとか、様々参考にしています。時々セミナー参加して、今さらながらの再確認をしたり、変更された規則・表示等学習させて頂いています。

訪問販売に対しては「いりません」。電話での勧誘に対しても「結構です」ではなく「いりません」とハッキリ言うこと。振り込め詐欺に対しては、怪しいと思ったらまず誰かに相談する。一人で判断しない。普段から子どもとはコミュニケーションを取っている等々……。周りの人にその話しをする。人との触れ合いが大事と学習しました。

モニターから No. 11

年3回、場所を変えて「消費生活展」が開催されていますが、参加見学にみえられる皆さんの興味度合いを見ていると、感じる場合があります。やはり就学児童を抱えているお母様方が一番に興味を示されます。高齢者の方々の関心度合いが、いまいち少ないようです。70歳以上の高齢者が消費者トラブルに関わる率が高い理由も理解できます。

グループ活動の集まりに参加して、雑談の場では極力「悪質商法・振り込め詐欺」等の話題を話して皆様の意見を聞いています。皆の集まる所での話題が共通化されて大変勉強になり、お互いの被害防止に役立っています。

モニターから No. 12

このモニター活動の募集に興味をひかれ、応募させて頂きました。しかし、実際には土・日・夏休みの参加、協力、セミナーが多く、案内された講座等も子供の学校行事と重なり、全く参加できませんでした。かえってご迷惑をおかけしたように思います。

詐欺の手口がますます巧妙化してきたり、ネットを通した買い物が増えてきたりする現代の中で、私たち消費者一人一人が消費活動に対する知識を深めたり、意識を高めたりしていくことが最も大切だということを実感しています。消費生活をめぐるトラブルは、自分しか防げないという意識を持って、購買活動をしていくことが不可欠だということを伝えたいです。

モニターから No. 13

消費生活において、さまざまなトラブルを避け賢い消費者になるためには、正しい情報とコミュニケーションが必要だと思います。例えば、現在問題になっている食品への異物混入や安全性の問題についてもSNSやマスコミの情報を鵜呑みにせず、まず自分で考え、信頼できる人と意見交換する機会を持ち、炎上に加担しない中立的な立場で判断することが大事です。

モニター活動を通して、いろいろな角度から考えることを学んだので、何かトラブルがあった時は、知人や地域の人たちと客観的な立場で話していきたいと思っています。冷静に判断するためにはどうすればいいかを、学んだことから伝えていきたいと思っています。

モニターから No. 14

今回のテーマには困っている。健康食品・サプリメントなどを一つも利用したことがない。今でも利用していない。毎日食べている新鮮な野菜・魚その他が私にとっては健康食品であり、その結果として毎年受けている人間ドックで栄養的な偏りなどを指摘されたこともないので、サプリメントが必要と思わない。

その通常的に購入している食品について留意していることは、野菜ならなるべく有機栽培のものを少々値段が高くても選ぶし、その他のものも産地が明確で信頼できる産地のものを購入している。したがって、スーパーマーケットやコンビニで売っている出来合いのお惣菜・弁当などを食べたことはない。そういうお惣菜・弁当の材料はどういうものが使われているか全く不明であるし、大勢の人たちが歩き回る雑踏の中でむき出しで陳列され売られているので、安心して買うことはできない。

自分で選んで買う材料を自宅のキッチンで自分で調理したものが、健康食品であると思っている。

モニターから No. 15

「消費生活」やお金のことをもっと若い時に勉強しておけば良かったとつくづく考えます。しかし、その頃はパート等して目先のことに追われ、やはりなかなか出来なかったな、今の方たちも同じだろうと思います。特に昔はお金に関することはタブーで、あまり人と話せないと思っていました。私の場合、もっと人にも親にも相談した方が良かったのかなと思います。

今は学んだことを少しでも還元出来ればと、リフォーム関係のこと等相談に乗りたいと考えていますが、だいたい人に話すのは失敗(?)した後。私も含めてですが、なかなか難しい事です。世の中の景気、世界の情勢、予測のつかないことだらけで不安になりますが、これからの世代が

失敗しながらも、何とか安心な老後を送って欲しいと願っています。ありがとうございました。

モニターから No. 16

1年間、消費生活モニターとして活動できる機会を与えて頂き、ありがとうございました。食生活のこと、リフォームのこと、振り込め詐欺のこと等、専門家の方々の意見に触れ、自分の持っている知識を更に深めて学ぶことが出来ました。まだまだ振り込め詐欺等、更に被害が拡大している状況であり、更には川崎の中学生の痛ましい事件等、心を痛める事件が後を絶ちません。

私たちの持ち得る力では限界がありますが、モニターとして学んだことが悪質な訪問販売等、自分自身も含め未然に防ぐことが出来るよう、たくさんの人たちに発信していけたら幸いです。

最後になりますが、消費生活センターが主催する講座が少々マンネリ化しているように思えます。今年は新しい企画で、新たな講座が生まれることを期待しています。

モニターから No. 17

消費生活モニター活動を通じて、私は少子高齢化社会の進行する中、高齢者のひとりとして生きる「暮らし」の知識とタイムリーな情報を得ることができました。契約・金融商品・保険・食品・終活(エンディングノート)などに関する専門家による講演やモニター通信を通じて自分の生活を取り巻く環境の現状を再認識させられたのは、有意義でした。

また消費生活展などに参加して、消費者が日常「暮らし」を意識して、どのように取り組み理解しているかを知ることができました。直近の社会問題としては、新聞やテレビでよく消費者トラブル、特に振り込めなど新しい手口の詐欺や食品汚染がよく取り上げられています。契約上のトラブルは対応が時間期限もあります。クーリングオフも経験しました。私にとってモニターになって良かったことは、消費生活センターの存在と役割を知ったことで、それを知人や地域にもっと伝えたいと思います。

モニターから No. 18

消費生活モニターを通して学んだことを自分の生活に活かし、また友人・知人などの交流を通して折に触れ話題にすることがあります。生活に密着したテーマだと、いろいろ議論して盛り上がります。

「暮らしのセミナー」などに積極的に参加してくれるようなテーマが、課題と思います。

モニターから No. 19

モニターをさせて頂いて数年になりますが、通信を通して様々な方々が、実にいろいろな考えをお持ちになり、工夫なさって知恵を絞ってより良き暮らしを実践されていることが分かり、なるほどと参考にさせて頂いたり、自分の勉強不足を反省したり貴重な学びの場でした。

何歳になっても人の話に耳を傾け、教えを請う姿勢を失ってはいけない！身近な方たちの実生活に即した情報というのも、分かりやすく意義深いものであると思います。若い方々が興味を持ってくれたらと思います。

モニターから No. 20

モニター通信の各テーマを書くにあたって、改めて日々の生活を見直すことができました。消

費税の値上げ、年金の減額、社会保障費の増額などにより、日々の暮らしは厳しくなっています。その中で振り込め詐欺にかからないようにとか、生命・傷害保険等の見直しはとても勉強になりました。これらのひとつひとつが知人との話題になり、お互いに話し合うことが認知症の予防に一役買っているのではと思います。

これから疑問に思ったこと、困った出来事などを話し合い、消費生活センターに相談することを知人には勧めようと思います。一年間ありがとうございました。

モニターから No. 21

主人の知人を通じて消費生活の勉強会に参加させて頂き、賢い消費者になるためには自分で考えていることより、専門の先生にご指導頂き知識の向上に役立てたいと思いました。終活を考えるライフプラン、自分たちはまだまだ先の事かと思っていたことが、改めて目先にある事実を知り、もっともっと勉強しなくてはと考える今日この頃です。

地域の方にもPRをして、なるべく多くの方が参加して頂けるよう協力したいと考えています。所用があり参加できない所が多々ありましたが、所長さんはじめ皆様方には大変お世話になりました。

モニターから No. 22

くらしのセミナーに参加して感じたこと、考えたこと。
本セミナーには、親しい友人から紹介されて受講を始めてから、約2年になります。本年度も政治・経済・流通・食品・健康と幅広いテーマについて勉強する機会を得、所長さんはじめ所員の皆様のご努力に心より感謝申し上げます。

一つ感じますことは、充実した講座内容に比して受講生が少ないことです。色々と制約はあるでしょうが、市報等でもっとPRしても良いのではないのでしょうか。また、タイムリーにNHKや地元テレビ局、各新聞社に記事やニュースにしてもらうのも一方法かと思います。

私自身、講座を通して学んだことを、生活面に活かしていきたいと考えております。

モニターから No. 23

私は郵送されたモニター通信を町内の老人会代表に渡しているのですが、定例の老人会の集まりで話材の一つになりつつあります。1年間の総集編は知識も知恵も豊富な老人会諸兄においても、何かしら感銘するものがあるのか、熱心に熟読をする姿が見られるとのことでした。

私はモニターとして私に課せられたテーマにより、日々の空気に流されて自己満足に陥りがちな消費生活において、新たな認識を深められることが多々ありました。そして、この活動を通じて得た知識・知恵を居住地域の同世代に伝えることにより、同世代の方々がそれぞれの自分の人生のステージに対応した消費生活を楽しむことになり、皆が人生をより豊かにすることが出来るのではないかと思います。

人は高齢になると創造的活動や生産活動は退嬰化してきてしまうので、日々の消費生活に関心を深めることは極めて大切になります。この意味においても、モニター活動はとても意義深いことだと思います。

モニターから No. 24

モニターになって周りの人に伝えたいことは「必ず誰かが助けてくれるから相談してほしい」です。モニターの活動を通して買い物をする時、不明点があれば何でも聞く。すぐ契約しない。トラブルを防ぐために、家族や周りの人や、時には消費生活センターを利用して疑問を解決できることを学びました。困った時は、ひとりで抱え込まずに、まず近くにいる人に分からないことを聞いてみてほしいです。

モニターから No. 25

消費者モニターとなっていていろいろ勉強させて頂きましたが「だまされない」ために「メディアリテラシー」を磨くということを伝えたいと思います。あふれる情報を鵜呑みにしないで、批判的に読み解き、かつ活用する力を養うことが大切だと思います。「オレオレ詐欺」がいまだに増え続けている現状ですが、たとえ息子が困っているという電話を受けても鵜呑みにしないで、まずは自分から息子に確かめてみることをしなければダメです。

健康食品でも「体に良い」という情報が氾濫していますが、これさえ食べたり飲んだりしていれば大丈夫という魔法の食品はあり得ません。何事も日進月歩の世の中ですが、新たな情報に関心を払いつつも「だまされない」ために、今までよりも余計に頭と体を動かす努力が必要です。